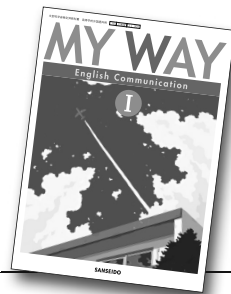


特集 高校の英語の授業をしよう

[コラム]

これが高校の英語教科書だ

三省堂 高校英語教科書編集部



1. 高校英語教科書の改訂のポイント

今年の4月から、高等学校において「新学習指導要領」における教科書での授業が始まりました。「新学習指導要領」を踏まえて教科書を作成するときの主な観点は、次の各項目です。

1. 科目構成の変更
2. 学習指導要領の下限規定
3. 語彙数の増加
4. 伝統文化と自然科学の追加
5. 文法項目の科目指定
6. 英語で授業を行うことを基本とする

ここでは、上記の観点を踏まえて教科書がどのように改訂されたのかを、「コミュニケーション英語」の教科書『MY WAY English Communication I』を例に説明します。

2. 『My Way English Communication I』の構成

① 本課の前の Starter

「コミュニケーション英語基礎」（中学の学習事項の復習）が科目として新設されている状況と、これまでの中学の学習指導要領が「聞く」「話す」活動に重点がおかれてきたことも踏まえ、本課に入る前段階として、高校での授業でよく出てくる最低限の文法用語や基礎項目などを整理する Starter を設けることとしました。中学3年間すべての学習を扱うことはできませんが、中でも大切と思われる項目（品詞、自動詞と他動詞、文型と語順、句と節、辞書の引き方）を絞って扱っています。

② (本課) Pre-Reading

新学習指導要領ではなるべく英語で授業を進める方向性が示されていることもあり、課の扉のページ

には、「Before You Read」を設けました。これは本課に入る前に、それまでに生徒がもっている課の題材に関する背景的知識などを、写真等を見ながら、教師と生徒とのインタラクションで引き出そうとするもので、英語の簡単な設問が用意されています。

③ (本課) While-Reading

本課の紙面構成は、左ページが本文、右ページが活動と、授業の1時間の学習項目が一目でわかる「見開き構成」がとられています。

本課ページの冒頭には、本文の読みを促すためのリーディングポイントが日本語で示されています。「英語で授業」ということを考えると英語で示すことも考えられますが、それは授業中に先生が英語でできるようにと考えて日本語にしました。

本文の題材は、教育基本法改正に伴っての「伝統文化」に関するもの、理数に関心をもたせるための「自然科学系」のものが新たに意識されています。

また、脚注には本文の内容をたずねる英問英答のQ&Aが用意されており、ここで内容の基本的な理解を押さえることができます。

さらに傍注には新語が掲載されています。新学習指導要領では、学習する語彙数が大幅に増え、中学で300語、高校で500語が従来の教科書よりも増えました。語彙力も大事な基礎力なので、語彙に注意を喚起させるために、「発音注意」「つづり注意」「アクセント注意」のマークがつけられています。

右ページには、「内容理解」「文法」「基本問題」「Reading Skill」が用意されています。「内容理解」としては、最終的には要約文の全文が書けるところまでを目標に、その前段階としての穴埋め問題や表での情報の整理、会話形式における内容の把握など形式を変えながら提示しています。

また、活動をするにあたっては「文法」を十分に

Shoes for a Dream

Section 1

高橋さんはなぜこのプロジェクトに参加することにしたのでしょうか。

One day in May 2009, Takahashi Naoko went to Kenya. She visited an area in Nairobi. People call that area Kibera. There, many children have no shoes. For those children, Takahashi brought a lot of shoes from Japan.



シドニー五輪(2000年)

She went there as a member of the Smile Africa Project. They collect used shoes and hand them out to children in Kenya. As a runner, shoes mean a lot to Takahashi, so she joined the project.

Kenya was familiar to Takahashi. She often competed with Kenyan runners in international marathons. However, at that time, she did not understand the reality of the country. Actually in some parts of Kenya, shoes have great value.



靴の提供を呼びかける高橋さん

◆Kenya [kɛnjə]

◆Nairobi [naɪroʊbi]

◆Kibera [kɪbɪərə]

used [juːzd]

runner [ˈrʌnər]

familiar [fəˈmɪliər]

compete(d) [kəmˈpiːtɪd]

◆Kenyan [kɛnjən]

international [ˌɪntəˈnæʃənəl]

marathon(s) [ˌmærəˈθɒn]

however [haʊˈevər]

reality [rɪˈælɪti]

value [væljuː]

◆動詞(V)にはcall以外に、name「〜と名づける」、make「〜にする」、keep「〜に保つ」などが使えます。

例) He named his daughter Nanako.
The news made everyone happy.

Q&A 1

1. Did Takahashi visit Kibera?
2. What do the members of the Smile Africa Project collect?
3. Why was Kenya familiar to her?

1 2009 = two thousand nine 4 Kibera キベラ(ナイロビ市内の一地区)
 7 the Smile Africa Project スマイル・アフリカ・プロジェクト 8 hand ~ out ~を手渡す The teacher handed books out to them.
 9 mean a lot to ~ ~にとってとても重要である
 11 be familiar to ~ ~になじみがある The song was familiar to us. 12 compete with ~ ~と競う

Lesson 2

Read Again

本文の内容に合うように()内に入る語を下から選んで、言ってみましょう。

Takahashi visited Nairobi. She brought (1) from Japan. In the Smile Africa Project, they collect (2) shoes and hand them out to (3) in Kenya. She did not (4) the reality of the country.

[used / runner / understand / shoes / children]

Grammar

→ SVOC

● 「〜を…と呼ぶ」= [S(主語) + call + O(目的語) + C(補語)]

People call that area Kibera.

◆動詞(V)にはcall以外に、name「〜と名づける」、make「〜にする」、keep「〜に保つ」などが使えます。

例) He named his daughter Nanako.
The news made everyone happy.

補語(C)が目的語(O)の説明をするような関係になるんだね。

TRY!

意味がとおるように()内の語句を並べかえて、言ってみましょう。

1. I (Kiki / named / my cat).
2. The wind (the room / makes / cool).
3. We (clean / keep / the kitchen).

Reading Skill

→ 形容詞と副詞 (p.6 品詞の一覧表)

第3段落(2.11~)を読みながら、形容詞を□で囲み、副詞に下線をひきましょう。

例 There many children have no shoes.

● 形容詞や副詞がわかると、より具体的な内容がとらえやすくなります。

本課の本文ページ (配当：1 見開き 1 時間)

理解することは必須ですので、教科書ではいかにわかりやすく簡潔に提示することができるかがポイントとなります。なお、「文法」については、課間にも5箇所「文法のまとめ」として鳥瞰図的に、<英語と日本語の語順>、<過去分詞のいろいろ>、<toのいろいろ>、<ingのいろいろ>、<ifのいろいろ>などの項目が扱われています。

なお、文法項目においては、従来は指定がありませんでしたが、今回は「コミュニケーション英語Ⅰ」に8つの文法項目(1 不定詞 2 関係代名詞 3 関係副詞 4 助動詞 5 代名詞のうちitが名詞用法の句および節を指すもの 6 動詞の時制 7 仮定法 8 分詞構文)の全部を扱うことが明記されました。また、Reading という科目がなくなり、「コミュニケーション英語」の中に吸収されたため、従来は3年生で履修する機会が多かった Reading Skill (読み方のコツ)を「コミュニケーション英語Ⅰ」から扱っていることも今回の改訂の特徴です。

④(本課)Post-Reading

課末には、課全体の「内容理解」のための問題として、リスニング問題と Summary (穴埋め)と Reading 活動としての「音読」、さらには、新学習指導要領の改訂のきっかけとなった、日本人が弱いとされている経済協力開発機構(OECD)の「PISA型読解力」の発問例を各課に用意しました。

また、語彙数の増加に伴う「語彙力の増強」のための一環として語彙に関する問題を設け(Words)、新出語彙をゲーム感覚で楽しみながら定着させられるように、問題も5種類のバリエーションで作成しました。なお、課間にも語彙を増やすための工夫として Vocabulary Building のコーナーを設け、<接頭辞>、<接尾辞>、<品詞の区別>、<基本動詞のイメージ>などを扱っています。

さらに、「文法」「表現」等の確認問題は、課を終えた後には、本課の題材のテーマに関連した自己表現活動、ゆくゆくは大学入試の自由英作文につながるための Self Expression が用意されています。